

## ■令和4年8月17日 文教くらし委員会県内調査

### 1 県立奈良高等学校（奈良市朱雀2丁目）

【調査目的】移転後の状況について

【調査概要】平城高等学校メモリアルルーム等校内を見学した後、校舎移転後の状況について説明を受けた。

【奈良高等学校の概要について】

- ・大正13年設置の県立奈良中学校を前身として99年の歴史を持つ。
- ・本年4月にこの地に移転。平城高等学校が果たしてきた地域連携の取組を受け継ぎ、発展させるため、地域連携センター平城山を設置。
- ・平成16年に文部科学省からSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定を受けて19年目、地域のSSHの中核として大学や研究機関との連携や海外研修を通して、科学技術系グローバルリーダーの育成に取り組んでいる。
- ・自由で豊かな学びを創造する高等学校として長い歴史の中で脈々と受け継がれてきた「自主創造」が理念。
- ・スクールポリシーは、平城高等学校の校訓等の精神を踏まえて、奈良高等学校としてのポリシーを定めている。

#### <地域連携センター平城山について>

（平城高等学校との関係）

- ・平城高等学校メモリアルルームについて、4月から7月までに23名の見学希望者を案内。8月についても予約が入っている。
- ・今年度は、同窓会を2つ企画。
- ・平城高等学校の電話番号がそのまま使われているので、平城高等学校に関する要望、問い合わせについて対応している。
- ・メモリアルルームの運用については、今後、平城高等学校同窓会のホームページに案内が掲載される予定。
- ・令和2、3年度に県教育委員会主体で、平城高等学校、奈良高等学校、地域代表の方と地域連携協議会を6回開催。平城高等学校がこれまで実施してきた地域連携活動のうち、「朱雀音楽祭」、「朱雀地区夏まつり」、「奈高生と学ぼう」を大きな柱として継続、発展させることとなった。

（地域連携活動）

- ・地域からの要望を受けて、「セーフティー・スクール作戦」、「キッチンカーフェスタ」、「平城・相楽ニュータウンまちびらき50周年セレモニー」等を実施・企画。
- ・奈良高等学校の独自企画として、公開講座、オープンスクール、けいはんなサイエンスフェスティバル、奈良文化財研究所との連携研究等を実施・企画。
- ・地域連携センターの設置により、地域の方との連携がスムーズに進み、4月からの移転で、地域に愛され、地域に育ててもらい、奈良高等学校を知ってもらい環境が整った。

#### <平城高等学校卒業生への対応について>

- ・平城高等学校卒業生証明書は奈良高等学校で発行。（実績14通、R4.4.1~8.2）県教育委員会、奈良高等学校のホームページで周知。
- ・教育実習生の受入れについて、今年度は16名中、5名が平城高等学校卒業生。来年度は20名中、6名が平城高等学校卒業生を受入れる予定。

#### <移転に伴う工事・修繕等について>

- ・石碑の移設等、計画的に実施しているものもあれば、急遽修繕が必要となる箇所も発生するものもあり、迅速に対応しているところ。

### 【質疑応答】

- Q 平城高等学校メモリアルルームの見学者はどのような方か。
- A これまでの見学者23名のうち、卒業生が21名、そのほか県議会議員、新聞記者等。卒業生の年代はばらばら。
- Q 移転に伴い修繕をしなければならない箇所が多いように思う。また、新校舎のトイレは洋式が2割しかないが、それに対応するために予算化されそうか。
- A 今年度は特別支援学校の洋式化、来年度以降順次、県立学校の洋式化が進められる予定。いつになるかは、はっきり決まっていないが、数年のうちに洋式化の工事が行われる予定。
- Q 「自主創造」について、校長自身の考えは。
- A 自ら学び、自ら開拓するという取組は非常に大切。新しいものを生み出す力や自ら進んで取り組んでいく姿は大事なことなので、この理念を大事にしていきたい。
- Q 平城高等学校メモリアルルームの運営管理に係る経費、展示しにくいものが置かれているが今後どのように展示するのか。
- A 管理については地域連携センター「平城山」センター長が行う。電気代等は学校運営費の中で賄われている。掃除や整理等は奈良高等学校の職員が担う。「平城高校」の文字盤は、現在仮置き。同窓会と相談して、こういった形で残すのかを検討する。
- Q 女子生徒の制服について、スラックスを選択できるよう世の中の動きが変わってきているが、そういった要望はあるか。
- A 今の制服に違和感を感じている生徒が数名いるため、制服として決めていないが、ズボンの着用を認めたり、自由度を増した対応をしている。100周年に向けて、制服の見直し等について議論をしていく中で、対応していかなければならないと考えている。
- Q 法蓮の校舎であれば、JRでも近鉄でも通学しやすいが、ここはJR沿線からは通学しにくくなる。そのような生徒はどのように通学しているのか。
- A 近鉄に乗り換えて通学している生徒が多い。



## 2 なら歴史芸術文化村（天理市杣之内町）

【調査目的】開村後の取組状況について

【調査概要】取組状況の概要について説明を受けた後、施設を見学

【なら歴史芸術文化村の概要について】

- ・平成26年から庁内検討を実施し、令和4年3月にオープン。
- ・県施設4棟、民設民営のホテルから成る多機能複合施設。飲食、物販、宿泊施設、文化施設が一体となった道の駅であることは、特徴的。
- ・敷地は3ヘクタール。整備費は約100億円であるが、国の交付金等の財源も活用。

（建物について）

- ・文化財修復・展示棟は、官民合わせて4つの文化財修復工房と展示、ギャラリースペースで構成。工房はガラス張りで公開、文化財4分野の見学可能な工房がある施設は全国初。
- ・芸術文化体験棟は、県が行うアートプログラムとして、スタジオや交流スペースに加えて、ホールやセミナー室等の貸館を併設。芸術文化に触れてもらう機会として、アーティストの制作活動の公開や交流イベント、幼児向けアートプログラムを実施。
- ・交流にぎわい棟は、飲食、物販サービスを提供する施設。地元の新鮮な食材、県内の特徴ある工芸品を販売。調理実習や工芸ワークショップを行える機能も備える。
- ・情報発信棟は、道の駅でもあることから24時間使用が可能なトイレがある。県内の交通、観光、文化資源の情報を提供。開館時にはコンシェルジュが常駐。
- ・隣接ホテル（フェアフィールド・バイ・マリオット奈良天理山辺の道）は、マリオットブランドの中でも一番カジュアルな道の駅併設型のホテル

（アクセスについて）

- ・天理駅から徒歩で40分のため、2次交通アクセスが課題であった。
- ・現在、朝夕の定時路線バスと9時から17時までの時間帯のデマンド式ジャンボタクシーを併用して運用している。デマンド式ジャンボタクシーは、アプリ、電話予約で数分から20分程度で車両が到着する。
- ・奈良公園エリアから直接アクセス車両を土日祝限定で実験運行している。

（運営について）

- ・指定管理者制度を導入。貸館、物販、飲食、一般的なインフォメーションサービスについて、指定管理者が実施。文化事業については、県が直営で実施。

（利用状況について）

- ・開村以来多くの来館者が訪れている。コロナ禍であり、海外からの訪問客が少ない状況であるので、今後の動きを注視して分析し臨機応変に対応していく。

【質疑応答】

Q 来村者は主にどこから来ているのか。

A アンケートはとっていないが、車のナンバーから、大阪、岐阜等、道路の東西から来られる方が多い。イベント時には県内からも来られている。開村当初なので、統計的な分析まで至っていないが、今後、実績を積み上げながら検討したい。

